

腕相撲 アジア 王者

かりや たかひろ
假屋隆広さん

1985 年生まれ 28 歳 財部町出身
財部高校 2 年生時に腕相撲をはじめる。
脊髄に神経が癒着する病魔に襲われ、22 歳から車いす生活を送る。
現在、のぶかた整骨院（末吉町）に勤務。
平成 25 年全日本選手権 2 位（左手）
平成 26 年アジア大会優勝（右手・左手）

6月下旬に仙台市でアームレスリングアジア大会が開催され、假屋隆広さんが見事優勝されました。障害があることを決して言い訳にしない假屋さん。その強さの秘訣（ひけつ）とこれまでの人生についてお話を伺いました。

なぜ腕相撲を始めたのですか

高校1年の時、やり投げをやっていたので体力と腕力には自信がありました。

初めての大会はテレビ局の腕相撲大会でした。そこから腕相撲の魅力にはまり、現在も続けています。

病魔に襲われたのはいつですか

専門学校3年時に突然、左足にしびれが出てきました。



アジア大会優勝のメダルを首から下げる假屋さん。

足の太さも見るからに細くなり、最初はトレーニング不足だと思っていました。日常生活にも支障をきたすしびれが続いたので、MRI検査をしたら脊髄（せきずい）に神経が癒着していると医者に告げられました。10時間を超える手術を3回行いましたが足に麻痺（まひ）が残り、22歳から車いすの生活となりました。

車いすの生活になり不安に思ったことは何ですか

真っ先に思ったことは、この先、彼女ができないんじゃないかと不安になりました。腕力もあつたので、歩けないことに不安はあまりなかったです。でも、人の目は気になりましたね。

前向きになれたきっかけは何ですか

考えが変わったのは、専門学校卒業後にお世話になった別府市の重度身体障害者リハビリセンターでした。半年間、職業訓練を行ったのですが、そこで自分よりも重度の障害のある方に出会い、勇気ももらいました。

両親にはきつくあたつて困らせた時もありました。それでも、いつも支えてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

後はやっぱり腕相撲ですね。座ってでもできる、絶対続けようと気持ちを切り替えました。腕相撲のおかげで前向きになれました。

今後の目標を聞かせてください

まずは、全日本選手権優勝ですね。そして、世界大会で3位入賞を目指します。

障害を持っている子どもたちへメッセージをお願いします

人の目を気にせず生きて欲しいです。自分が落ち込めば、周りも落ち込みます。逆に、明るく前向きに生きれば、周りも明るくなります。障害を持っていても諦めずに努力して夢を叶えてください。それが一番ですね。

突然の病魔を乗り越えた假屋さん。人を思いやる本物の優しさがそこにはありました。



のぶかた整骨院に勤務して4年目。施術室は假屋さん仕様に改良されています。



「假屋くんの強みは世界トップレベルのスピードとパワー。普段は優しいけど試合になると豹変（ひょうへん）しますよ」と話すのは假屋さん所属のアームチキンズ副代表横山佳祐さん（30歳）



郡城市志比田公民館で週2回、実践練習を行っています。